



# 病弱・虚弱

## 病弱・虚弱とは

「病弱・虚弱」とは、慢性的な呼吸器疾患、腎臓疾患、神経疾患、悪性新生物、その他政令で定める疾患及び身体虚弱の状態が長期間にわたる、または長期間にわたる見込みのもので、医療や生活規制が必要となるものです。

病弱・虚弱の学生は、本人が申告しないかぎり外見からは健康な学生と区別がつかない場合が多いです。また、同じようなケースが少ないため、共感し合える友人が少なく、体調不良や様々な制限・制約による学生生活がうまくいかなかった時などに心理的に孤独に陥りやすいことがあります。本人、支援担当者、教職員、主治医とプライバシーを守り、連携を取りながら、学生が安心して大学生生活を送れる環境づくりを整備していくことが大切です。

## 病弱・虚弱の人の困難さ

個別性が高いので一概にはいえませんが、抵抗力の低下などにより、病気にかかりやすい場合があります。また、回復が遅くなることもあり、学校生活や社会生活をおくる上で、活動が制限されてしまう場合もあります。

本人が申告しない限り健康な学生と区別がつかないことも多く、誤解を招いてしまうようなこともあるかもしれません。場合によっては、長期欠席等により周囲が気づいて把握されることもあります。“困難さがわかりにくいこと”が最大の困難さであるといえるでしょう。

## 困難の具体例

### 心理的

周囲から理解されにくく、様々な誤解を受けることがある。  
周囲の人の病気の理解不足が不安を高め、心理的な孤立に陥りやすい。  
実技等の履修への不安。

### 身体的

感染症等の恐れ、体調不良、発作



## 病弱・虚弱の人への支援

受診や体調不良、発作等で授業に出席できない場合などがあります。また、授業中でも急に具合が悪くなり、退席しなければならないこともあるかもしれません。主治医や保健診療所の診断書・意見書等に基づいて、配慮や支援を検討する必要があります。場合によっては、緊急時の対応方法を情報として共有しておくことも大切です。

## 対応・配慮の具体例

※以下はあくまでも一般的な支援の例です。

	物的支援	人的支援	環境調整	その他
入学まで				相談窓口の明確化 合否判定への影響否定
試験時	必要備品の準備	介助者の配置	別室受験の実施 室温調整	入学試験特別措置
修学環境		履修計画支援 <sup>*1</sup>		代替授業・課題等 <sup>*2</sup> 授業担当教員への周知
演習・実習・ 体育実技				レポートの提出等の代替措置等 活動制限に配慮した授業内容・方法の工夫

\*1 学生自身が履修の見通しが持てるように実技や実習・演習内容・方法を提示、代替内容等の準備や配慮事項を明示

\*2 通院等にかかる欠席の取り扱いについて

病弱・虚弱の学生は、病気の理解不足、実技等の履修に不安を抱えています。入学・授業までに疾患の特性や配慮事項、緊急時の対応方法、服薬状況、最寄りの医療機関、主治医・保護者の連絡先など必要な情報を得て、支援を検討、受け入れマニュアルの作成・整備・シミュレーションを実施することが大切です。

## コミュニケーション・バリアフリー支援室より

病弱・虚弱の学生は決して少なくありません。ただ、その全ての人に対して、大学での配慮や支援が必要なわけではありません。見てわかる障害ではないことが多いので、基本的には学生本人からの申し出によって対応を検討することになります。申し出があった場合には、医師や専門家の判断を仰ぎながら配慮・支援を慎重に判断していくことが望まれます。